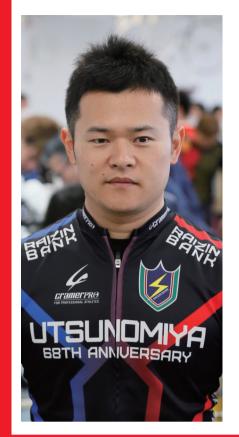
プロスポーツ

立川記念「鳳凰賞典レース」号外版



選手直前インタビュー・注

河村 雅章 (東京/92期)

(立川記念は)自分にとっては一番重要な開催なんで、そこに向けてやっています。最近は感触も良くないし、流れの方も悪い。悪循環ですかね。ただ、レースは作れているんで、状態を戻すことに集中したい。できるかぎり調子を上げて、自分の力を出し切れるように。地元だからいいレースができるように頑張る。

山崎 充央 (東京/79期)

今年(18年)はアマチュアの面倒を 見たり、充実した1年だったと思います。立川はホームバンクなので、ここだけは気持ちが違います。今年はS級に復帰して、立川のF1は2回決勝に乗れた。優勝したいとか勝ちたいとかではなくて、とにかく気持ちだけは誰にも負けないように。それだけですね。



勝瀬 卓也 (神奈川/84期)

11 月に富山、豊橋とF 1 戦を制すなど昨年は後半戦に入り一気に調子を戻してきた。 昨年前半の不調は当所記念の落車から。蘇った鋭いキメ脚で今年は年頭からロケットスタートを決める。



佐々木 孝司 (青森/84期)

前期、S級に復帰してからは白星を量産。 9月青森、11月小松島では準決勝1着で決勝に勝ち上がっている。勝ちパターンがまくりという点も直線の長い当所向き。格上相手でも一発ありそうだ。





戸田康平 (香川/101期)

もともと脚はある選手。戦う気持ちが戻り、 9月青森記念では9②②③着と立て直しの 兆しを見せていた。10月千葉記念の落車で 上昇ムードに水を差された感はあるが、期も 新たにここから攻めのレースを見せる。

S級プロックセプン

ブロックセブンとは

「推理しやすい、わかりやすい、的中しやすい」をコンセプトにした、競輪独特の「地区」の色合いをより濃く打ち出した S 級 7 車立ての新たな単発レース。

もまくり、差しで浮上。 となりそう。モツれると渡部幸訓増えてきた。芦澤には腕の見せ所け、バックを取って粘るレースがする。目標の山本紳貴も力を付果を残し始めた芦澤辰弘が対抗 G1戦線に本格的に登場し、結

決着しそう。

存在感際立つ

新春開催のブロックフは古性

